



岩手県 一関地区遊技場組合
「継続10年目となる児童養護施設への
サンタ慰問によるプレゼント及び
プロ野球公式戦観戦ツアーの実施」事業



一関地区遊技場組合青年部
会長
岩淵建二さん

子どもたちに夢と希望の
大きな贈りもの

サンタに扮してプレゼントを手渡す

真に県民から愛され、信頼される娯楽産業になるために、「地域との共生」を合言葉に、社会貢献事業を展開している岩手県遊技業協同組合と、その傘下にある一関地区遊技場組合。現在、同組合は一関地区にある13店のホールで構成されているが、社会貢献活動の一環として、クリスマスシーズンになると青年部会が主体となり、一関市内にある児童養護施設「一関藤の園」をサンタクロース姿で訪問し、プレゼントを手渡す事業を10年前から継続して行っている。

昨年は12月5日に実施され、施設で暮らす子どもたち一人ひとりに、サンタクロース姿に扮した青年部からのケーキやお菓子など、一足早いクリスマスプレゼントが贈られた。3～5歳の6人の幼児が待つ部屋では、子どもたちがリングに立てたキャンドルに火をともし、プレゼントのお礼にと練習してきたサンタクロースの歌を披露して歓迎してくれたという。

10回目となった昨年は、活動の広がり象徴するように、活動に賛同した一関市内の染物店の店主も、特別ゲストとしてサンタクロースに扮して参加、子どもたちにお菓子やおもちゃなどのプレゼントを贈った。青年部では、さらに5万円を同施設に寄付した。

子どもたちをプロ野球公式戦に招待

サンタクロース慰問活動と並んで、青年部が9年前から継続して行っているのが、同施設の子どもたちをプロ



楽天イーグルスのグッズを手に仲間と応援



内野席からプロ野球選手のプレーに声援を送った



サンタクロースに扮した青年部会のメンバー



子どもたち一人ひとりにプレゼントを手渡す

野球の観戦に招待する事業である。昨年は、10月5日に仙台市のクリネックススタジアム宮城で行われたパリーグの楽天ゴールデンイーグルス対西武ライオンズ戦に招待した。

青年部会員8名が、子どもたちと職員合わせて30名とともに同球場を訪れ、東北を拠点とする楽天に対して内野スタンドから声援を送った。すでにリーグ初優勝を決めていた楽天のホームゲームとあって、球場の盛り上がりも例年以上。試合は1-2と楽天が惜敗したが、子どもたちは迫力あふれるプロ選手のプレーとスリリングな試合の展開に夢中になった。9年目ともなると、子どもたちも楽天の応援スタイルをすっかりマスターし、球場のファンと一体となって、目を輝かせながら応援を繰り返した。

この二つの事業は、毎年、年度初めに青年部会が役員会で計画し、実行委員長を含む担当者が半年がかりで準備

から実施までを担っている。このように遊技業関係者が、児童養護施設とそこに入所する子どもたちへの支援活動を行っていることは地元紙や地元テレビなどでも報道され、それを見た市民や県民をはじめ、行政当局やその関係機関からも高く評価されている。施設の子どもたちからはお礼の作文が届くほか、学園長や職員からも深く感謝され、事業の継続を強く要望されている。

青年部の岩淵会長は、「プロ野球観戦やクリスマスの訪問活動などを通じ、いつも子どもたちからパワーをもらっている。また、この二つの事業を継続して行ってきたことで、青年部の会員同士の絆も深まっている。来年度以降も継続し、子どもたちに夢や希望を与えるとともに、少しでも地域貢献、社会貢献ができるようがんばってきたい」と話す。この活動は今後も長く継続されることだろう。

